

ただ一つのお葬式を

創業は江戸時代の1815年。204年続く葬儀社の8代目として「重みは感じる。心を入れて故人を送ることが大切。時代に合わせて形を変えていくが、その本質は絶対変えない」と力を込める。

本社のある塩釜市に、県内初の葬祭会館を開設したのが祖父の代だった1980年。会館葬が普及し、現在は県内に14館を有する。提携式場は9館に上る。

社長就任後、家族葬邸宅「デ

ごんきや社長

佐藤 知樹さん (44)



ユエ」を始めた。家族葬が主流になりつつある中で「求められているものに応えた」。仙台市若林区荒井を皮切りにユエットからの造語。1日1

塩釜市、利府町と計3カ所にある。施設名は共鳴する意味のデ

推進するのは「世界でたった一つのお葬式」だ。社内には勤務歴40年以上のベテランもいる。「この業種は人の力が大きい。聞く力、おもてなしのスキルを高めたい」と話す。

組で遺族は宿泊でき、弔問客対応に追われることもない。「大切な故人と最後の一晚をゆつくり過ごし、感謝や悲しみなど思いを伝えてもらえれば」と願う。

さとう・ともき 東海大卒。2000年に入社。企画室長、専務を経て、父の後を継ぎ15年から現職。仙台市出身。妻と長男と同市宮城野区で暮らす。

.....